目　次

はしがき

序　章　「戦後日本」の輪郭……1

1　先行研究における本書の位置づけ　1

（1）戦後日本と在日朝鮮人　（2）「在日朝鮮人歴史家」を研究する

（3）「辛基秀」とは誰か　（4）「歴史実践」の枠組みを用いる意義

2　本書の構成　13

第1章　通信使の歴史実践における在日朝鮮人歴史家の位置づけ……17

1　通信使に関する日韓の歴史研究　17

（1）日本における通信使研究　（2）韓国における通信使研究

2　通信使の歴史を活用した関連文化事業に関する研究　21

（1）地域活性化・国際交流・教育の観点から　（2）在日朝鮮人歴史家の関与をめぐる視角

第2章　「アウトサイダー」としての戦後……29

――学生運動から『季刊三千里』まで――

1　社会運動家・辛基秀　30

（1）京都での幼少期　（2）学生運動の青春と葛藤　（3）総連および文芸同での辛基秀

2　在日朝鮮人歴史家と一九七〇年代日本社会　47
（1）一九七〇年代日本と「朝鮮」　（2）『季刊三千里』と辛基秀
（3）在日朝鮮人歴史家による通信使研究の始まり

第3章　「明治百年」への対抗……77
――映画『江戸時代の朝鮮通信使』の制作と上映運動――
1　戦後映画史における辛基秀の位置づけ　78
（1）戦後日本の映画史と市民運動　（2）戦後在日朝鮮人映画史における辛基秀
（3）映像作家・辛基秀の誕生
2　映画『江戸時代の朝鮮通信使』の制作と上映運動　84
（1）映画制作の過程　（2）映画の反響と上映運動

第4章　「暗部」から射付ける……103
――「大阪築城四〇〇年まつり」と青丘文化ホール――
1　「ちょっと待て！大阪築城四〇〇年まつり」の市民運動　104
（1）「大阪21世紀協会」の設立――模索する大阪　（2）「大阪築城四〇〇年まつり」の企画
（3）「官製のまつり」との闘い　（4）京都における耳塚民衆法要
2　「青丘文化ホール」の挑戦　130
（1）在日朝鮮人によるライブラリーおよびミュージアムの開設
（2）辛基秀と「青丘文化ホール」

3　大阪に生きる「在日朝鮮人」として　145
（1）在日朝鮮人歴史家たちの訪韓　（2）「韓国」との距離

第5章　「交隣」への模索……157
――「朝鮮通信使の道をたどる旅の会」の人々――
1　「朝鮮通信使の道をたどる旅の会」の概要　158
（1）会の発足と目的　（2）事務局員　（3）参加者と講師　（4）旅の行き先
（5）会報
2　通信使をめぐる参加者の歴史実践　165
（1）参加者手記の分析　（2）「旅の会」の意義

第6章　「中心を取り戻す」ための実践……197
――芳洲会から縁地連まで――
1　地方自治体における通信使の歴史顕彰の始まり　198
（1）雨森芳洲について　（2）二つの芳洲会　（3）盧泰愚大統領演説と通信使
2　日韓における通信使の歴史展示の拡大　207
（1）政府主催の交流事業・学術界の動き　（2）地方自治体における通信使への着目と実践
3　「縁地連絡協議会」の設立と越境する通信使関連文化事業　216
（1）対馬のイニシアティブ　（2）「朝鮮通信使フォーラム・イン対馬」の開催
（3）縁地連の発足　（4）日韓交流の構造変化と在日朝鮮人歴史家たち

終　章　「朝鮮通信使」とは何だったのか……235
1　各章のまとめ　235
2　本書の意義と結論　239
3　「通信使」はどこに向かうのか　244
参考文献および資料一覧　251
あとがき　271
辛基秀関連略年表　279
事項索引
人名索引

凡　例

1. 引用文は基本的に原文をそのまま記載しているが、誤字や仮名遣いについて、読みやすさを考慮して適宜改めた箇所がある。
2. 引用文における省略は〔中略〕と表記した。
3. 韓国語の文献および記事の日本語訳は、すべて筆者による試訳である。